

# 行政改革外部評価調書

評価対象 : 宇治田原町第7次行政改革大綱・実施計画  
評価年度 : 令和6年度(第2次ローリング計画)

令和7年11月27日

外部評価委員：委員長	窪田好男
副委員長	上野高夫
委員	中村祐子

## ■ 行政改革外部評価委員会による評価

宇治田原町第7次行政改革大綱及び実施計画（以下、それぞれ「大綱」「実施計画」という。）においては、毎年度、外部の有識者等による外部評価を実施し、客観的評価による総括を経て、行財政経営の改革及び改善を進めるとされています。

この大綱に基づき、住民及び学識経験者等からなる「宇治田原町行政改革外部評価委員会」（以下、「委員会」という。）を設置し、宇治田原町の行政改革の進捗状況を客観的に評価することとしています。

当委員会では上記趣旨のもと、実施計画2年目となる令和6年度の実施状況について大綱及び実施計画の「(1)持続可能な財政基盤の構築」、「(2)職員イノベーションと組織マネジメント」、「(3)スマート自治体への転換」の3つの柱に掲げられている具体的な改革事項について、評価を行いました。

以下に、総論、そして特記すべき項目別の評価の内容を示します。

## ■ 総括的事項

今回のローリングは現大綱・実施計画における初年度目の取組について、全庁的なヒアリングを経て、33項目の取組結果と進捗状況、19の数値目標に対する達成状況等を落とし込んだ実施計画書に基づき評価と意見提案を行いました。

取組項目については、多くの項目で計画どおり実施されており、一部実施に留まっている項目も要因等分析されていることから、全体としての進捗は概ね良好と評価するところです。

一方で、施設老朽化等に伴う大規模修繕や、これまでの投資的事業による公債費負担増の懸念もあるところであり、また、令和6年度の一般会計決算では実質単年度収支で約1,000万円の赤字が生じたことから、次年度以降の黒字化及び今後の健全な財政運営に向けて、第7次行政改革大綱及び同実施計画の着実な取組を求めるところです。

最後に、当委員会は、行政改革の取組に対する評価だけを行う場ではなく、町の実情に寄り添ったアイデア出しの場としても、引き続き提案・支援をさせていただくことを申し添えます。

## ■ 項目別事項

### (1) 持続可能な財政基盤の構築

#### ○中長期的な財政シミュレーションを踏まえた財政運営

一般会計起債残高、経常収支比率、実質公債費比率とも評価指標数値を達成されたことは、中長期的な視点に立った財政運営の成果と認められます。一方で、当面の間は公債費負担の増加は継続するとの分析もあり、実質公債費比率の評価指標も漸増する見通しであることから、大型事業の抑制、交付税措置のある起債発行に努められることを望むとともに、新名神高速道路の開通遅れにより、周辺土地利用に伴う税収増の見通しも不透明なことから、財政シミュレーションを踏まえた機動的かつ柔軟な財政運営を望みます。

#### ○民間活力等との連携促進

学校給食共同調理場運営の民間への委託も進められ、民間活力の導入に向けた取組は評価できるところです。現在直営で実施している業務についても、引き続き、効率的・効果的な行政サービス提供のため、幅広い視野で民間活力の導入を検討されることを求めます。

### (2) 職員イノベーションと組織マネジメント

#### ○職員のデジタル力向上

グループウェアシステムの独自構築や、A I※文字起こしツールの導入等、デジタル技術を活用した事務効率化の取組が認められるところではあります。デジタル技術は日々進化しており、研修等の機会を通じた職員一人ひとりのデジタルスキル向上を強く求めます。

#### ○課題対応能力・政策形成能力を高める人材育成

複雑多様化する行政課題に対応できる人材を育成するため、町独自の研修をはじめ、京都市町村職員振興協会の研修にも参加されるなどの努力が認められるところではあります。働きたい方に選ばれる職場となるためにも、常に学べる職場を目指していただくとともに、社会情勢に応じた資格取得も進めていただき、住民の期待に応えられる人材としての育成に努めていただくことを望みます。

### (3) スマート自治体への転換

#### ○生産性向上による労働時間の縮減

グループウェアシステム等の活用により、スケジュール管理、出退勤務時間の把握に努められ、業務効率化に繋がっているとのことである一方で、職員一人あたりの労働時間は前年度より増加していることから、グループウェアシステムやA I文字起こしツール等のデジタル技術活用により生産性の向上に努められ、労働時間削減に繋げていただくことを望みます。

※AI(Artificial Intelligence)…ビッグデータとよばれる膨大なデータベースをもとに、コンピュータが自ら判断する仕組みのことで、RPAなどのシステム内に組み込まれ、データに基づいた判断や作業の振り分けを行う。